

「焦る気持ちに一呼吸 ゆとりを持って安全運転」 H25年度最優秀交通安全標語

1. あいさつ

新しい年が始まりました。本年も安全運転で行きましょう。今年は特に厳冬の模様です。雪があまり降らない地方に住んでいますと、急に雪が降ったときの朝の道路の混雑ぶりは、大変です。緩やかな坂道でも、普段チェーンを用意してないので、止まってしまい大渋滞が起こります。まして雪国に住んでいる人は、慣れているからといっても、安心は禁物です。スリップに気をつけて下さい。

2. 安全運転のポイント

雪道の安全運転のために

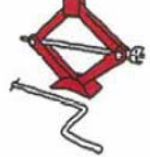
■用意しておく便利なもの



**チェーン**  
スタッドレスタイヤを装着していても、万一の時に備えて持っていれば安心。



**アイスクレーパー(霜取り用のヘラ)**  
ガラスに付着した雪を取り除くのに使います。雪の多いところやワゴン車などには、トンボ型の柄の長いタイプの物が便利でしょう。



**ジャッキ**  
タイヤ交換、チェーン装着時に必要。



**霜取りスプレー**  
最近では、再凍結するのを防いだり、曇り止めを兼ねているものが多いようです。使いみちに合わせて選ぶことができます。



**ブースターケーブル**  
雪道はバッテリーが上がりやすくなってしまいます。もしものために、車に積んでおきましょう。



**長靴**  
もしも動けなくなっても、雪を気にせずに自由に動くことができます。



**懐中電灯(ライト)**  
暗がりではチェーンを着けるとき役に立ちます



**シャベル・スコップ**  
雪道で動けなくなった時があると便利です。折りたたみ式のものもあるので持ち運びに便利。



**毛布**  
車内の防寒着になるだけでなく、万一雪道でタイヤが動けなくなったときにタイヤの下に敷くと脱出できる。

■雪道で気をつけること

凍結している道路や雪が降り積もっている道路は、非常に滑りやすくなっています。急激なハンドル操作やアクセル操作、急ブレーキは厳禁です！スピードの出し過ぎは、カーブを曲切れなかったり、交差点で停止できないなど、事故につながってしまいます。

車間距離が十分でないと、前方の車に追突しやすくなるだけでなく、路面状態の把握がしづらくなります。雪が降っている場合強い降雪や吹雪で視界が悪くなります。日中でもライトを点けましょう。これは自分が前を見るためだけでなく、自分の位置を対向車や歩行者に自分の車の位置を知らせる為です。

路面凍結・積雪道路は滑りやすく、フットブレーキではタイヤがロックしやすくなっています。ロックすると、車がおしりを振ったり、制動距離も長くなってしまいます。急ブレーキは厳禁、エンジブレーキを活用しましょう。





雪が積もった道路は、どこまでが道でどこからが側溝なのかわかりにくいですね。あまり左寄り走っていると側溝にはまってしまふことがあります。積雪の多い地方では、たいていの道路との境界を矢印や反射板などで示しているの、それにしたがって走行するようにしましょう。視界の悪い吹雪の時は特に注意しましょう。



停車中の車の熱で雪が溶けて再び凍ったりして出来るのがアイスバーンです。特に発進・停止の多い交差点や晴れた日のカーブの日陰などに出来ることが多く、非常に滑りやすいので注意が必要です。



「わだち」があれば、基本的にはわだちに沿って走行した方が走行しやすいです。ただし、地方の狭い道ではわだちが3本しかないこともあり(中央のわだちは対向車と共通になっているため)、対向車とすれちがう時はわだちから外れなければならないので、不安定にならないように気をつけましょう。

橋の上は風通しがいいので、路面がすぐに冷え込んでアイスバーン状態になりやすくなっています。昼間でも凍っていることもありますから、橋の上を走行するときにはスピードを控えめにして走行するようにしましょう。



トンネルの出口では、乾燥した路面から急に路面状態が変わるので、スピードの出しすぎには十分注意するようにしましょう。トンネルの出口では路面が凍結していることもあります。

雪道では燃費が悪くなりやすく、渋滞やトラブルで思わぬ時間がかかることがあります。渋滞に巻き込まれたり、夜になって開いているガソリンスタンドが無かったり、燃料が残り少なくなってヒヤヒヤした経験をお持ちの方も多いのでは？早めの給油を心がけましょう。

出発前10分間の暖気運転心がけましょう。暖気運転の必要性は車の為でもあり、自分の為でもあります。暖気運転する事で車内は暖まり、凍ったウインドウも溶けます。

#### ■ 駐車時にしなければならないことは何？



駐車するときにはワイパーを立てておきましょう。寝かしたままだと雪の重みで曲がる場合があります。

駐車の際にサイドブレーキを引いておくと凍結して戻らなくなってしまうことがあります。マニュアル車ならギアを1速かバック、オートマ車ならPに置いて駐車しましょう。



エンジンをかけたまま仮眠すると、雪でマフラーが塞がれて排気ガスが車内に侵入し、一酸化炭素中毒で死に至るおそれがあるので十分注意が必要です。仮眠を取る場合は、暖かい服装をしたり毛布を掛けるなどして、車のエンジンは停止しておいた方が良いでしょう。



長時間駐車する時には、常時風雪が吹き付ける方向にフロントを向けて止めておくと、エンジンルームに雪が入り込んで凍結しエンジンがかからなくなることもあります。段ボールなどで覆っておくと防げるでしょう。

事故もなく 無事に過ごせる よろこびを 感謝しながら 安全運転 今月のスローガン